横浜天声キリスト教会　週報　第 18 巻 25 号（No.697）　2023 年 6 月 18 日

礼拝プログラム　※主の導きにより変わる事があります

黙祷　エペソ 6:1-4 ・・・・・・・・　御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　171番　はとのごと降る
*交読文　・・・・・・・・・・・・・・・・・34番
*使徒信条　・・・・・・・・・・・・・・会衆一同
*頌栄　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　172番　雨をふりそそぎ
礼拝のための祈り　・・・・・・・成田エクレシア：史執事　天声：小林伝道師
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　334番　　わが父、罪人
メッセージ　・・・・・・・・・・・・・・遠くから子を祈りながら見守る父(ルカ 15:11-32)
御言葉を適用する祈り　・・　会衆一同
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　305番　春風そよふくごと
幸せと成功の宣言文・・・・　会衆一同
献金感謝の祈り　・・・・・・・・　パスター
報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　本日 6/18 より 7/1 まで、林・川合牧師は韓国コーエンへの参加と、プサン・ビジョン教会での奉仕、また日本からインキュベーティングを受けているディレクターと次世代を励ましにトーブミニストリーを訪問します。天声エクレシアの諸集会は、通常通り働き人が担当し行います。
*主の祈り　・・・・・・・・・・・・・・　会衆一同
*祝祷　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　パスター

天声教会は

・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。（ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5）
・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。（ローマ 10:10）
・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。（ローマ 10:10）
・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。（第二テサロニケ 3:5）

祝福の御言葉（下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい）

____よ、あなたは父の「教訓(ムーサル：しつけ、懲らしめ、矯正)」を聞き、母の「教（トーラー：御言葉）」を捨ててはならない。（箴言 1:8）
____よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、「そうすれば、____は幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。父たる____よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。(エペソ 6:1−4)
「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」・・・この時アブラハムが目をあげて見ると、うしろに、角をやぶに掛けている一頭の雄羊がいた。・・・それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお「主の山に備えあり」と言う。（創世記 22:2,13−14）

メッセージ概要

本日は父の日、普段から家族を思い、働いておられる父に感謝する日である。本日はイエス様がたとえで話された、天におられるまことの父のご性質から、世の父の性質と、家族との本来的な関係を学びたい。

有名な「放蕩息子のたとえ」の父と子の関係は、世の父子の関係を知っている私達からすれば、尋常でないように見えるかもしれない。父親の常軌を逸した「お人好しさ」にしても、息子達の父に対する「わからずや」さ加減にしても。しかし、このたとえの中の、いびつにも見える父と子の関係こそ、天の父なる神様と、私達との関係を、如実に表している。弟息子は、まだ財産を受け継ぐべきでない時にそれを求め、自立して父のようになろうとした。父の方は、子に財産を与えたなら、どう出るか、どう浪費するかさえよく知っていた。その上で彼らに財産を与え、弟息子が家を出て行く時も、自由意志に任せて、そのまま行かせた。
天の父なる神は、放任主義の神なのだろうか？　否！　父は、弟息子が財産を全部持って出て行った日以来、**愛と忍耐をもって待っていた**のである。いつ戻ってくるだろうか、今か、今かと…。天の父なる神は私達の自由意志を尊重し、いつも心にかけておられる。そしていつか、子が自分の意志で戻り、自分から進んで愛の関係を求めるようになるのを、待っておられる。そうなるまで、子は、色々と通らなくてはならない。

私達は、まことの父から離れて、「自由に」生きるとするなら、ただ罪を飲み食いし、尊い神の子という身分を「放蕩」する以外に無い。御父から遠く離れた世で、神の子としての尊厳を汚し、世の主人であるサタンの元に身を寄せ、食べても食べても満足しない豚にひたすらエサをやり続ける、という虚しい仕事をさせられ、豚のエサで自分の腹を満たしたい、と願っても、誰もくれない。それでもなお、御父の元に戻らない・・・。
しかし、やがて転機が訪れる。この息子は、ある日、父の元に帰ろうと思った。それは、腹が減ってひもじくなったからではない。我に返って、悟ったからである。もしまだ「自分の好きなようにしたい」という思いがあるとするなら、どんなにひもじくなっても、豚の餌を食べてでも決して帰らないが、彼は**我に返り**、**神に対し、また、父に対して「罪を犯した」と悟り**、父の前で**告白すべき言葉をも準備**して、父の元に戻った。

父のほうは、息子が出て行ったその日以来、「いつ帰って来るだろうか」と、片時も目を離さず待っていた。そして、息子が家に近づいて来た時、家まではまだ遠かったのに、父は彼を見つけ、はらわたがちぎれる思いに駆られて、走り寄り、彼を抱いて、何度も口づけした(20 節)。これは、父なる神の、絶大な恵みと寛容の現れである。たとえ子が御父の元を離れてしまったとしても、自分の罪を認め、悔い改めて父に戻るなら、子としての服（晴れ着）と、権威（指輪）と、自由（くつ）を返していただけるのだ。そのための必要条件は、**自分は天に対して罪を犯し、また、あなたの前に罪を犯した、という、心からの悔い改めの告白**である。

世の子供は、やがて親離れしなければならないが、体は離れていても、心はいつも繋がっている、という関係が望ましい。私達には、いつも愛をもって見守っておられ、決して離れない天の父がおられるのだから、子をいつまでも自分の支配下に留め置くよりも、思い切って**真の父へと明け渡し**、そして自分は、遠くにいる子をいつも思い、天の父に祈り続ける事が良い。アブラハムは父の家を出て神の示す地へ行ったし、イサクは、父親の手で直接神に捧げられ、イサクから生まれる者は神のものとなった。ヤコブも、ヨセフも、ダニエルも、父の元から強制的に離されたものの、心はいつも父の家、すなわち**父が信じた神**にあり、引き離されて行った先の「世」において、大いに鍛えられ、祝福され、偉大な人物になって行った。もし子供が、親に心を縛られ、チャレンジしたい事を抑えつつ、親元にいるなら、兄息子のようになってしまう。彼は父のそばにいながら、どんなに父から愛され、既に父から全てが与えられていた事さえ、ずっと知らないでいた。

父はいつも働きに出て、母よりは身近にいないかもしれない。しかしたとえ体は離れてはいても、心はいつも家族の方面を向いており、家族の無事と幸せを祈りつつ、いのちを削って働いている。「*あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。*」(出エジプト記 20:12)
父も子も、神を敬いつつ心が繋がっているなら、離れ離れであっても大いに祝福される。父の日を迎えるにあたり、父の愛と犠牲に感謝と敬意を表し、神を愛して、一家共々祝福されて行きますように！

お祈りしていただきたい事がありましたら、以下にお書きの上、教会へお持ち下さい。

集会案内

主日礼拝（日曜）

日本語礼拝	11:30 開始
交わり	13～14 時
English Service	14 時半開始

日々の集会

月～金	早天祈祷会	5:00～
火・木・金	賛美と祈りの集会	13:00～
火～木	夜の祈祷会	19:00～

水曜礼拝

1 部	13:00～
2 部	19:00～

金曜祈祷会 19:00～

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6 番 B 出口を出てまっすぐ徒歩 5 分
JR・関内駅より徒歩 10 分
京急線・日ノ出町駅より徒歩 10 分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1F がファミリーマートになっております。

聖書メッセージをメールでお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！

第 18 巻 25 号　　2023 年 6 月 18 日

横浜天声キリスト教会

礼拝　週報

〒231-0058　　パスター：　林和也　川合ゆきえ
神奈川県横浜市中区弥生町 2-17　ストークタワー大通公園 I-201
TEL/FAX：　045-326-6211
Homepage：　http://voice.of.christ.yokohama/
email：　ephes_03-tensei@yahoo.co.jp